

MaOIプロジェクト第1次戦略計画の見直し概要

第3章 戦略ごとの取組

戦略委員からの御意見

新たに追加する項目

第3章 戦略ごとの取組	戦略委員からの御意見	新たに追加する項目
<p>「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成</p>	<p>関係機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAMSTECとの連携によるプロジェクトの成果創出を期待する ・社会実装の段階で県民に参画してもらう機会があると、地域におけるプロジェクトの理解に繋がる ・大学等の各連携機関と県の研究所との間での交流による、研究員の資質向上を期待する ・金融機関と連携した企業へのアプローチにより、プロジェクトを知ってもらえる機会が広がる ・VCやファンド等による資金獲得の流れができるとステップアップが期待できる ・事業化を担う企業側のニーズや技術をよく把握することで、産業応用の可能性が広がる ・ファルマ、FHCaOI、AOI等の他のプロジェクトとの隙間のない連携による相乗効果を期待する ・静岡市の取組や、海洋文化・研究拠点化推進協議会と連携することで地域づくりの促進を期待する 	<p>【視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ デジタル技術やデータを活用した社会課題の解決への期待 ◆ ブルーカーボンや海洋をフィールドとしたエネルギー問題への対応 <ul style="list-style-type: none"> ➢ JAMSTECとの連携協定に基づく共同研究等の推進 ➢ 県立大や東海大等との連携強化による、外部資金の獲得 ➢ 事業化成果等を紹介しプロジェクトの有益性を訴求することで会員を拡大
<p>オープンデータ・オープンサイエンスの推進</p>	<p>海洋のDX(スマートオーシャン)・BISHOPの拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文と関連データのリンケージを整えると研究者が使いやすくなる ・微生物ライブラリーの拡充、「機能性」のデータの付与に期待する ・どんなデータを集めどう活用するのか、いつまでに何をするのかという戦略を立てることで、データ活用の取組強化を期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 有用性を可視化した魅力ある海洋微生物ライブラリーの構築 ➢ BISHOPのデータ解析機能の強化 ➢ BISHOPを中心としたDX化の展開を支援 ➢ スルガベイシミュレータの活用を通じて、陸域と海域のつながりを踏まえた海の生態系保全と持続的な利活用に向けた研究を支援
<p>拠点・プラットフォームの整備と活用 (推進体制の整備)</p>	<p>海洋環境の保全・ブルーカーボン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸域から海域まで全体を俯瞰して計画することでより効果的な取組となる ・日本が先進的に取組むべき事項として海洋におけるカーボンクレジットが挙げられる ・AOIのグリーンカーボンをはじめ、国や他の研究機関と連携し、全体を意識した取組となることを期待する ・海洋プラスチック対策事業は、問題の現状把握と科学的な検証などの丁寧な対応が欠かせない 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新「駿河丸」を活用した海洋微生物資源等の採取支援 ➢ 温水利用センター沼津分場の再整備により、持続的な養殖業の拡大や質の向上、海洋資源の保全の積極的な底支えとなる栽培漁業を引き続き推進
<p>研究開発領域の重点化</p>	<p>食料安全保障</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養殖を含めた国内生産の増大や備蓄を考えていくことで、不漁や有事への備えとなる ・海洋資源が不安定であるため養殖への期待が高まっており、種苗生産等の養殖技術のデジタル化も重要である ・廃棄魚や水産加工残さ等の農業用肥料・飼料への転換に注目が集まっている 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 基金を活用した資源回復枠の創設により、サクラエビ等の水産資源回復に向けた調査・研究や、サガマ藻場の回復を目指し、移植における定着率向上のための技術開発を実施
<p>産学官連携による産業応用の推進</p>	<p>出口を見据えた取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産だけでなく流通・消費を見据えた戦略を持つことで事業化をより強力に推進できる ・黎明期は幅広に取り組み、産業界の需要を探していくことで、次第に方向性が定まる ・販売先のチャンネルを持つことができれば、ニーズの吸い上げや効果測定が可能となる ・知財活用の枠組みも重要性を増している ・シーズ創出における研究費の助成事業は、費用対効果を勘案した随時の見直しにより、県にとっても研究者にとっても実のある内容となることを期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海洋生分解性プラスチック等の代替素材の技術開発や関連製品の導入普及を支援 ➢ フーズ(FHCaOI)やAOI等の他のプロジェクトとの更なる連携強化による産業応用の推進 ➢ 関係先と連携した販売チャンネルの確保を検討するほか国内外の市場動向を注視する等、事業化支援を強化
<p>人材育成 地域づくり 世界発信</p>	<p>海外展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光と連携した情報発信を期待する ・海外のクラスターとの連携は関連企業を連れて行き、マッチングに繋がった等の発展が望ましい ・国際的にどう動くのか方向性を示すことで、関係者がネットワークを構築しやすくなる <p>広報活動、発信力の強化</p> <p>具体的な事業化成果の紹介や、金融機関と連携した支援内容の広報、展示会等への出展に取り組むことでフォーラム会員の拡大とプロジェクトの発展が期待できる</p> <p>訴求力のある成果創出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文による学術的な評価と、製品数や特許件数という企業の評価を確実におさえることで、訴求力が高まる ・売上げ 円、雇用創出 人という成果創出を期待する 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ つなぐ会による実践活動(環境保全活動の取組支援や啓発活動)を強化 ➢ 国内外のクラスターとの連携強化 ➢ プロジェクト全体の情報発信を強化し関係者及び県民の参画を促進

MaOIプロジェクトの歩み

● マリンバイオ産業振興ビジョン

● MaOI 機構設立
MaOI フォーラム設立
つなぐ会創設
湾クラブ移管
第1次戦略計画策定



● MaOI-PARC開所
BISHOP運用開始
MaOI研究推進
コーディネート活動



● ブルーエコノミー
駿河湾国際ラウンドテーブル



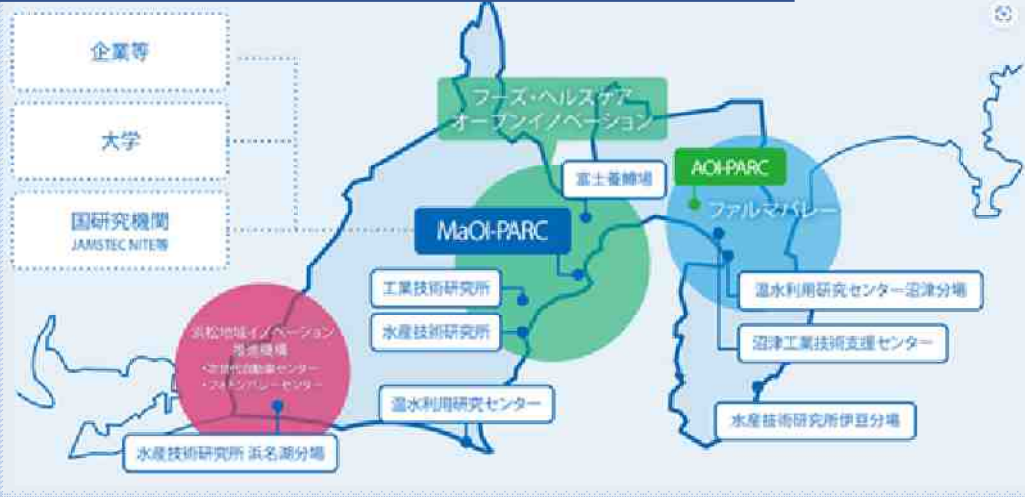
● デジ田海洋版
(次期交付金計画)

● MaOIプロジェクト
第2次戦略計画

MaOIプロジェクトの強み

- マリンバイオテクノロジーの活用
- データ駆動型の研究開発及び産業応用の推進
- 海洋イノベーションの創出

MaOI-PARCを核としたネットワーク型の拠点形成



○ブルーエコノミー駿河湾国際ラウンドテーブル

海と人が共にある暮らしを未来につなぐために日本が取り組むべき方向性について、国へ提言



(国内外の有識者による提言の取りまとめ)



(提言授与)



(国内外の有識者)

【提言要旨】

区分	内容
デジタル田園都市国家構想の発信	国際的な枠組みにおいて、日本がモデルとしてデジタル田園都市国家構想の海洋版を発信し、世界に日本のリーダーシップを発揮していくこと。
国のリーダーシップとなる組織の創設	海洋のサステナブルな保全と発展について、国のリーダーシップのプラットフォームを創設し、推進力とすること。
政府の駿河湾スマートな構想への積極的関与	具体的なシナジーを創出し、駿河湾をスマートな構想として積極的に推進すること。具体的には、駿河湾をスマートな構想として、お皮切りにして、先端的な構想について積極的に関与すること。

2 次期MaOIプロジェクト全体像

MaOIプロジェクト第一次戦略計画

区分	内容	中間見直しにおける追記事項
主旨	「マリンバイオ産業振興ビジョン」を具体化するための実施計画書	デジタル化の進展やブルーカーボン等を記載
戦略	「知」の集積とオープンイノベーションの拠点形成 多様な主体が参画する「MaOIフォーラム」を設置・活用し、オープンイノベーションの拠点を形成 県内外の大学・研究機関(JAMSTEC等)との連携体制構築	○(国研)海洋研究開発機構(JAMSTEC)等との連携協定に基づく共同研究等の推進
戦略	オープンデータ・オープンサイエンスの推進 海洋生物資源ライブラリーとデータベースの整備 データポリシーの策定、駿河湾の海洋環境データや微生物の遺伝情報等のデータプラットフォームの構築	○魅力ある海洋微生物ライブラリーの構築 ○データ駆動型研究の推進
戦略	拠点・プラットフォームの整備と活用 MaOI-PARCを中心としたネットワーク型の拠点形成(温水利用研究センター等との機能分担) AOI、ファルマ等のプロジェクトとの連携促進	○温水利用研究センター沼津分場の再整備 ○駿河丸を活用した海洋微生物資源等の採取支援
戦略	研究開発領域の重点化 短中期(水産、食品)と長期(創薬等)の分野への展開 NITEと連携した「海洋プラスチックごみ問題」等への貢献 シーズ創出研究の実施	○水産資源回復に資する研究の実施
戦略	産学官金連携による産業応用の推進 事業化促進助成の実施及び海洋技術開発の支援 ファルマや静岡市海洋産業クラスター等の機関との連携による産業応用の促進	○基金を活用した海洋プラスチック対策事業
戦略	人材育成・地域づくり・世界発信 多様な専門人材の育成や、まちづくりの取組等との連携 「海洋」をテーマにしたネットワークの構築 海外のBlueTechクラスターとの連携推進	○基金を活用したつなぐ会等の実践活動の強化 ○国内外のクラスターとの連携強化と情報発信

ブルーエコノミー駿河湾国際ラウンドテーブル提言

区分	提言ポイント
デジタル田園都市国家構想の海洋版を発信	国際的な枠組みにおいて、日本がモデルとしてデジタル田園都市国家構想の海洋版を発信し、世界に日本のリーダーシップを発揮していくこと。
国のリーダーシップのプラットフォームとなる組織の創設	海洋のサステナブルな保全と発展について、国のリーダーシップのプラットフォームとなる組織、例えば「海の未来会議」を創設し、推進力とすること。
政府の駿河湾スマートオーシャン構想への積極的な関与	具体的なショーケースとして、先端的な取組を進めつつある駿河湾において、ブルーエコノミーEXPOを皮切りに駿河湾スマートオーシャン構想について政府として積極的に関与すること。

駿河湾スマートオーシャン構想を念頭に置いた海洋版デジタル田園都市国家構想

海洋DXの実装	法人運営(総務人件費)
	BISHOP運営
	資源回復研究
	シーズ創出研究(DX推進枠)
海洋システムの創生	水産、港湾、運輸を含む「海業」のデジタル化
	データ利活用促進(「BISHOP+」整備) 海洋微生物ライブラリー含む
	駿河湾実証フィールドの整備、推進
	海洋生物資源のゲノム解析による創薬等の開発支援
ブルーテッククラスター構築への環境整備	フォーラム運営
	MaOI-FS
	つなぐ会運営
	事業化助成(DX推進枠)
企業への創出	海洋技術開発助成(DX推進枠)
	地域企業、水産事業者、大学・研究機関、NPO、VC、首都圏スタートアップ、海外BlueTechクラスター、政府機関、自治体等による連携構築
	海外先進地との連携
	ブルーテッククラスターアライアンスへの正式加盟に向けた調整・手続
企業への創出	「海の未来会議」創設・事務局運営
	「ブルーエコノミーEXPO」の設立・開催
	海洋スタートアップの誘致・集積、統合的育成支援
	スタートアップ等新産業を担う高度デジタル人材の育成、集積

スマートガーデンポートの実現

科学的知見の充実
浅海から深海へのブルーカーボンの推進
駿河湾の富を活かした新産業の創出
親水空間を活かした「みなとまち」の再生

海洋DX大学院大学構想

構想の構築	海洋の物理、化学、生物データの蓄積、解析、シミュレーション予測の技術開発の環境整備
構想の推進	海洋ビッグデータの新産業利用 海洋の物理、化学、生物データの蓄積、解析、シミュレーション予測の技術開発の実施 シミュレーションにたけた高度デジタル人材の育成 データの見える化による海洋VR体験の市民への提供